



学校だより

12月号

横浜市立菊名小学校

令和4年11月30日

感謝への想像力を

校長 野間 義晴

横浜市では、「国民読書年」を契機として、読書活動活性化・学校図書館活性化をめざして、11月の第一金曜日を「はまっこ読書の日」として子どもたちの豊かな心と生きる力を育む糧になることを願って読書にかかる取組を展開しています。

本校でも、図書委員会が中心となって、全校で読書パズルや読書くじを行いました。普段でも学校図書館の利用は多いのですが、「パズルのピースをもらえた。」とか、「くじがひけるのかな。」など子どもたちが前のめりになってパズルやくじの呼びかけに取り組み、さらに本にふれあう機会が増えました。

読書は子どもの豊かな心を育むという面においても、学力を伸ばすという面でも大きな役割を果たしています。家庭で小さいうちから読み聞かせをしたり、ゆっくりと絵を見たり、本を読む体験をすることが大事で、学校でも積極的に行っています。幼児期からゲームやテレビなどのメディア浸けにされている子どもと、読み聞かせで育った子どもとでは、情操面での発達に大きな違いが出てくるそうです。読書が培う力（言葉の知識や読解力など）はあらゆる教科等の学習の基礎学力に欠くことができないものといわれます。また、読書によって育まれた豊かな感性や情操、思いやりは子どもの心の発達に大きな影響をもつともいわれます。



その意味からも、読書活動は子どもが言葉を学び、感性をみがき、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものなのです。子どもに限らず人は読書によって、様々なことに興味や関心広げ、それを探究心につなげます。そして思考力を高め、想像力や表現力を豊かにします。

本校ではそうした読書の重要性を基に古くから「まごころの会」による読み聞かせ活動も行っています。地域の方々が菊名の子のためにと読み聞かせの勉強会を開き、継続してクラスで読書のシャワーを読み聞かせとして展開し、大きな効果をあげています。同じように菊名の子のためと、「学援隊」の方々が学校環境の安全を守ってくださっています。また、落ち葉の多い季節には「落ち葉はきボランティア」の方々が、校内の落ち葉掃きに集まり環境整備に取り組んでいただいています。

こうした取組をはじめ、数えきれないくらいの多くの活動に深く感謝申し上げます。

感謝して生きることは、生きる上で重要と考えます。相手の貢献に感謝しなければよりよい社会的関係は築けないからです。感謝は自然とわき出る心の働きで、強制されるものではありません。困ったことや苦労したことがあったときに初めて、助けてくれた人への感謝の気持ちが自然と想像できます。「感謝への想像力」とも言えるものが働くからなのでしょう。日々の生活の中でふと浮かんだ小さな感謝の出来事に想像力を働かせることが、この「感謝への想像力」を育むのです。菊名小でも読書等をはじめ様々な場面で、「感謝への想像力」を育み高め、感謝して生きる心の働きを発展させていきたいと思ひます。

今年も本校への様々な教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。
どうぞ、よいお年をお迎えください。

